

# 自然科学のとびら

Newsletter of the Kanagawa Prefectural Museum of Natural History

Vol. 20, No. 1 神奈川県立生命の星・地球博物館 Mar., 2014



## ヒオウギ

*Mimachlamys nobilis*

(Reeve, 1852)

愛媛県宇和島産（養殖）

田口公則（学芸員）

ヒオウギは、鮮やかな色を持つ二枚貝です。その黄、橙、紅、褐、紫といった色彩は、貝殻蒐集家だけでなく万人をも魅了するものでしょう。

ヒオウギは“南のホタテ”と呼ばれ、三重県、和歌山県、愛媛県、大分県、島根県などで養殖されています。カラフルなヒオウギ、じつは天然個体のほとんどが褐色です。養殖では、鮮やかな色の親を選びその稚貝を殖やし、さらに選別を重ねることで、カラフルな個体を数多く出荷できるのです。

一般に、熱帯海域の浅海にすむ貝

は、鮮やかな色を持つ傾向があります。日本のヒオウギは、房総から沖縄に分布し、水深 20 m 以浅の岩礁に生息しています。ヒオウギは、日本より南方域にすむ *M. crassicostata* と同種だとする説もあります。とすると、ヒオウギは鮮やかな色を持つ南方系種の一員となります。ヒオウギの色は、南方の色彩豊かな浅海という環境での保護色だと考える人もいます。自然界の色の不思議はつきません。

(本号 2 ページに関連記事)